

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所ケ・セラPlus		
○保護者評価実施期間	2026年8 月1 日 ～ 2026年8 月30 日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2026年 8月1 日 ～ 2026年8 月 30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 9月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	園芸活動・地域交流の充実 園芸活動を通して野菜の栽培や収穫を経験でき、トマト・キュウリ農家の方との地域交流も行っています。	子どもたちが野菜の成長を身近に感じられるよう、観察や植え、収穫まで継続して経験できるようにしています。地域の農家の方との交流も大切に、実際に見たり触れたりしながら、地域や食への興味を育てています。	事業所内の畑や園庭を活用し、野菜の栽培・収穫や季節の生き物に触れる機会を大切にしています。日々の活動の中で自然に触れる経験を積み重ね、子どもたちの興味や気づきを広げていきます。
2	屋外活動が充実していること テラスや園庭、畑などの環境を活用し、外遊びや畑遊び、季節に応じたさまざまな活動を経験できます。	テラスや園庭、畑などの環境を活用し、天候や子どもの発達・興味に合わせて、身体を動かす遊びや自然に触れる活動を取り入れています。室内外の活動を組み合わせ、子どもが十分に身体を動かし、さまざまな感覚を経験できるよう工夫しています。	季節に応じた自然体験や身体を動かす活動を計画的に取り入れています。
3	給食とつながる食育活動 自分たちで収穫した野菜を給食で食べるなど、栽培から食べるまでの経験を大切にしています。「食べてみたい」という気持ちや食経験の広がりにつながっています。	自分たちで育てて収穫した野菜を給食で味わうなど、食材に親しみを育てる経験を大切にしています。無理に食べることを求めめるのではなく、「見てみる・触ってみる・食べてみる」経験を積み重ね、食べられるものや食への興味が広がるよう支援しています。	収穫した野菜や果物を給食で味わうだけでなく、ジャムづくりなどのクッキング活動にもつなげ、食材に触れる機会を増やしていきます。栽培・収穫・調理・食べるまでの経験を通して、食への興味や「食べてみたい」という気持ちを育てていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個々の特性に応じた安全面への配慮 異年齢の児童が利用しており、一人ひとりの特性や身辺動作、移動面で必要な支援が異なります。園外活動では安全確保に必要な職員体制等の課題があり、実施できる機会が限られています。	異年齢の児童が利用しており、身辺動作や移動、安全面への配慮など、一人ひとりに必要な支援が異なるため、園外活動時の職員体制の確保が課題となっています。	児童一人ひとりの特性や安全面を踏まえ、活動場所や参加人数、職員配置を事前に検討し、無理のない範囲で園外活動の機会を確保していきます。短時間の散歩や近隣の外出など、実施しやすい活動から経験を積み重ねていきます。
2	地域や他事業所との交流機会 現在、保育所や幼稚園、他事業所等との交流機会が少なく、地域の子どもたちと一緒に活動する経験が十分に確保できていません。	日々の支援を優先する中で、保育所・幼稚園や他事業所等と交流するための時間や機会の確保が難しく、交流につながる地域との関係づくりが十分に進められていないことが要因として考えられます。	保育所・幼稚園や他事業所等との交流について、日常的な情報交換から始め、無理なく実施できる交流方法や機会を検討していきます。地域の行事や事業所内での交流など、子ども同士が関わる経験を少しずつ増やしていきます。
3			